



令和7年度
さいたま市学習状況調査
解説資料【改訂版】

【社会】



令和8年2月
さいたま市教育委員会

目 次

調査問題の解説

I 小学校 第5学年

- | | |
|----------------|---|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 2 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 3 |
| 3 正答例 | 4 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 5 |

II 小学校 第6学年

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 8 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 9 |
| 3 正答例 | 10 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 11 |

III 中・中等教育学校 第1学年

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 14 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 15 |
| 3 正答例 | 16 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 17 |

IV 中・中等教育学校 第2学年

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 20 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 21 |
| 3 正答例 | 22 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 23 |

調査問題等の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、設問のねらい、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、正答率(速報値)等を示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を見童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和7年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

また、指導のポイントを具現化し、授業(学び)の改善・充実を図る際の参考となるよう、「学びの知恵袋」として、授業(学び)のアイデアの一例を示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名		略称
令和〇年度	さいたま市学習状況調査 小〇社会	令和〇年度市調査【小〇】
令和〇年度	さいたま市学習状況調査 中〇社会	令和〇年度市調査【中〇】

なお、本書では、市の正答率を示している。

I 小学校第5学年

I 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	<p>本問題は、主として「地理的環境と人々の生活」に関する内容を踏まえ、社会科の学習を行う上での基本となる知識が身に付いているかを確認するため、令和5、6年度市調査に続き本年度の調査でも出題した。</p> <p>(1) (2)では、令和6年度市調査から、方角や地図記号を変更し、白地図などにまとめる際に必要となる地図記号などの基本的な知識が定着しているかを問うこととした。</p> <p>(3) (4)では、地域の平面地図や凡例から必要な情報を収集し、判断できるかを問うこととした。</p> <p>本問題では、資料の読み取りに関する課題の改善状況を把握するため、本年度市調査では、小5と小6で同一の問題を出題した。</p>
県の様子	2	<p>本問題は、令和6年度市調査においても出題した、「資料から必要な情報を的確に読み取ること」や、「読み取ったことを関連付けて考える」ことができるかについて、その知識・技能を測るために出題した。</p> <p>(1)では、さいたま市の人口について、グラフを適切に読み取って選択することができるかを問うこととした。</p> <p>(2)では、埼玉県地形の様子と人口が多い市を関連付けて考えることができるかを問うこととした。</p>
災害からくらしを守る 火事や事故、	3	<p>本問題は、「資料からの確に情報を読み取ること」に関する問題である。</p> <p>(1)では、2つの資料を見比べながら、ベン図を用いて情報を整理しながら、消防と警察の連絡の仕組みについて考え、選択することができるかを問うこととした。</p> <p>(2)では、自然災害に対する備えを表した図を基に、自分たちを含めた地域の人々ができることについて考えることができるかを問うこととした。</p> <p>(3)では、水の循環について表した図を基に、浄水場等の働きについて、既習事項を生かして選択することができるかを問うこととした。</p>
我が国の国土	4	<p>本問題は、「世界における我が国の国土の位置」と、令和6年度の市調査【小5】でも出題した、「日本の各地の気候の特色に関する問題」である。社会科の学習で必要となる基本的な知識・技能等が身に付いているかを測るため出題した。</p> <p>(1)では、動画を参考にして、我が国の位置等の情報を正しく理解しているかを問うこととした。</p> <p>(2)では、さいたま市と奄美市という気候の特徴がはっきりと異なる地方の雨温図から情報を正しく読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>(3)では、気候にあわせた家のつくりの工夫について、自然条件と関連付けてどのような建物がふさわしいかを判断することができるかを問うこととした。</p>
これからの食料生産 店の仕事	5	<p>本問題は、「社会的事象の目的や意味を読み取ること」と、「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。</p> <p>(1)では、動画を参考にしてスーパーマーケットの人が消費者のどのような願いに応えようとしているのかを考えることができるかについて問うこととした。</p> <p>(2)では、2つの資料を比べて、米の消費量と収穫高の変化を読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>(3)では、これからの食料生産について、生産性や品質を高めるための、食料生産に携わる人々の工夫を考えることができるかを問うこととした。</p>
工業生産	6	<p>本問題は、「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。</p> <p>(1)では、日本の工業生産の様子の変化をグラフから正しく読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>(2)では、優れた製品を生産するための工夫や努力を読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>(3)では、既習事項や生活経験とも関連させて選択することができるかを問うこととした。</p> <p>なお、資料1は、令和5年度市調査【小5】までは、工業生産額を円グラフで表していたところを、令和6年度は帯グラフに変更し、教科書で示されている資料の形に近づけて出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第5学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的 環境と人々の 生活	現代社会の 仕組みや働きと人々の 生活	歴史と人々の 生活	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度		正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	出 題 年 度 ・ 調 査 名 【 学 年 】	正 答 率 (%)	出 題 学 年	正 答 率 (%)
1	(1)	八方位(北西)を理解している。	○			○		選	80.0	0.1	R6市【小5】	78.5	小6	76.2
	(2)	郵便局と畑の地図記号を理解している。	○			○		選	46.5	0.0	R6市【小5】	91.2	小6	45.6
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取り、考えることができる。	○				○	選	62.9	0.1			小6	69.6
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考察することができる。	○				○	選	82.2	0.3			小6	86.7
2	(1)	埼玉県のグラフから、さいたま市の人口の数値を正確に読み取ることができる。	○			○		選	79.9	0.0	R6市【小5】	80.6		
	(2)	埼玉県内の人口が多い地域と、地形との関わりを考察することができる。	○			○		選	56.6	0.1	R6市【小5】	62.9		
3	(1)	消防と警察の連絡の仕組みを表した図を基に、消防と警察に共通することについて考え、選択することができる。		○			○	選	61.5	0.1				
	(2)	自然災害に備えるために、自分たちや地域の人々ができることを資料から考え、選択することができる。		○			○	選	61.5	0.1	R6市【小5】	67.6		
	(3)	水の循環について説明する内容を考察することができる。		○			○	選	50.6	0.2				
4	(1)	世界における我が国の国土の位置を理解している。	○			○		選	37.1	0.2	R6市【小5】	43.2		
	(2)	雨温図から、さいたま市と奄美市の気候の特色を読み取ることができる。	○			○		選	67.9	0.2	R6市【小5】	69.8		
	(3)	自然条件に合わせて、どのような建物がふさわしいか考え、選択することができる。	○				○	選	61.8	0.2				
5	(1)	販売の仕事が、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていることを考察することができる。		○			○	選	80.8	0.1	R6市【小5】	83.6		
	(2)	日本の米づくりを表す2つの資料を比較しながら、米の消費や生産の変化について読み取ることができる。		○			○	選	60.0	0.2				
	(3)	食料生産にたずさわる人々が、工夫や努力をしている様子を考察することができる。		○			○	選	77.8	0.2	R6市【小5】	82.0		
6	(1)	日本の工業生産の概要をグラフから正しく読み取ることができる。		○			○	選	72.0	0.3	R6市【小5】	71.2		
	(2)	消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考察することができる。		○			○	選	75.2	0.2	R6市【小5】	40.8		
	(3)	輸送手段とその特徴を、考察することができる。		○			○	選	59.0	0.5	R6市【小5】	78.0		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第5学年】

設問番号	正答例	解説（考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等）
1	(1) 1	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、学校のまわりは東・西・南・北の四方位によって様子がちがう場合があることを学習しました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の「あ」は「北」と「西」の間に当たるので、正答は1の「北西」です。
	(2) 2	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地域の様子を地図から読み取りやすくなります。示されている地図記号は郵便局と畑なので、正答は2です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用して確かめましょう。
	(3) 1	資料2にある地図記号と、「はんれい」にある土地の高さを見比べて考えましょう。芝川の周りは土地が低くなっており、田や畑が集まっています。一方の鉄道や大きな道路の周りには、郵便局や図書館などの人が集まる施設が集まっています。
	(4) 2	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わりと、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と比べて、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林は減ったことがわかります。
2	(1) 3	埼玉県で人口の多い市について、グラフから情報を正確に読み取る問題です。さいたま市の部分を見ると、人口は「およそ130万人」であることがわかります。
	(2) 4	埼玉県の人口の多い市と、地形の特色を結び付けて考える問題です。資料2から、埼玉県には東の方に低地や台地が広がっており、人口の多い市も集まっていることがわかります。
3	(1) 3	消防と警察の連らくのしくみについて表した図をもとに、両方に共通することについて考える問題です。資料1・資料2からは、どちらも関係するところに情報を伝え、ひ害を減らすようにしていることがわかります。そのため、資料3の消防と警察に共通する部分には、選たくしの3が入ります。
	(2) 3	関係図をもとに、自然災害に備えるために自分たちでできることを考える問題です。資料4から私たちが地域の一員として、訓練に参加するなどの取組を通して、自然災害に備えることができることがわかります。
	(3) 3	水のじゅんかんについて考える問題です。資料5から、水は(う)の浄水場を通ったあとに学校や家、工場で使われることが分かるので、まちがった内容をふくむものは選たくし3です。
4	(1) 【1】あ 【2】い 【3】あ 【4】あ (完答)	世界の中での日本の位置について考える問題です。日本は北半球にあり、ユーラシア大陸のすぐ東に位置しています。また、日本海やオホーツク海、太平洋などの海に囲まれています。地球上の位置としては、スペインとほぼ同じ緯度(いど)にあります。「緯度(いど)」と「経度」のちがいに気を付けましょう。
	(2) 4	雨温図をもとに、さいたま市と奄美(あまみ)市の平均気温や降水量を比べる問題です。2つのグラフから、奄美市は1か月の平均気温が10℃を下回ることではなく、さいたま市に比べてあたたかい地いきであることがわかります。
	(3) 3	沖縄県は台風が多いため、伝統的なつくりの家では、台風から家を守るためのくふうが見られます。屋根のかわらが台風の強い風で飛ばないように白いしっくいどめたり、家を守るため周りを石がきや木で囲むなどのくふうがされています。
5	(1) 1	スーパーマーケットで働く人の仕事について考える問題です。資料1から、スーパーマーケットの人は、お客さんがほしい品物をいつでも買うことができるように、商品の売れ行きに応じて品物を発注し、店頭にならべていることがわかります。
	(2) 2	資料2からは、日本人の米の消費量が減ってきたことが読み取れます。一方、資料3からは、米の収穫高が減っていることが読み取れます。そのため、その両方を正しく説明している選たくし2が正答です。
	(3) 3	食料生産にかかわる人々のくふうや努力について考える問題です。資料4のウから、魚の群れをさがすために機械(ソナー)も使用していることが分かるため、選たくし3は、ふさわしくないといえます。
6	(1) 1	他の選たくしのまちがいを確にんしてみましょう。選たくし2については、工業生産がくの全体にしめるわり合は、1935年にせんい工業が一番多くなっているため、まちがいです。選たくし3については、日本全体の工業生産額は、時代によって大きく変化していることが分かるため、まちがいです。選たくし4については、金ぞく工業の工業生産額の全体にしめるわり合と金額は、1980年が約17%(約37兆円)、2020年が約13%(約40兆円)となっており、工業生産額としては増加していることが分かるため、まちがいとなります。
	(2) 1、4 (完答)	資料2から、弁当箱のふたのビニールの部分だけ外せるようにすることで、紙の箱を再利用しやすいように、くふうしていることがわかります。社会のニーズに応えるために、かん境にあたえるえいきょうも考えながら、作り方などを見直し、よりよい製品を作ろうとしていることがわかります。
	(3) 2	選たくし1のトラックは、出発地から目的地まで荷物を直接運ぶことができますが、天気やじゅうたいなどのえいきょうを受けて時間通りに荷物を運ぶことができないこともあります。選たくし3の貨物用の航空機も、小形の荷物を短時間で運ぶことができますが、天気が良くない日は飛ぶことができない場合があります。また、ジェット燃料を使うため、二酸化炭素のはい出量の課題があります。選たくし4のコンテナ船も、一度に大量の荷物を運ぶことができ、費用をおさえることができますが、海の天候によって運航できないこともあります。

4 特徴的な問題と解説

小学校第5学年「米づくりのさかんな地域」

【特徴的な問題】

5 (2)

日本の米の消費量^{しょうひりょう}や米づくりについて、資料2・資料3^{しりょう}から読み取れることとして最もふさわしいものを、次の1～4から一つ選びましょう。

出題の趣旨

本問題は、令和6年度市調査【小5】で出題した、「日本の米の消費量」や「生産調整」に関する内容について資料から必要な情報を読み取ることができるかみるために出題した。また、近年の米の高騰や消費量減少は、社会の中の高い関心事であることとして取り上げる。

「米の消費量の変化」「米の収穫高の変化」のグラフから「生産調整」についても関連させながら読み取りをし、答えを導くことを求めている。

指導のポイント

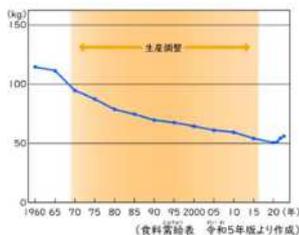
小学校学習指導要領社会第5学年の内容(2)に基づき、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など、外国との関わりに着目して、食料生産の概要を捉えたり、食料生産が国民生活に果たす役割を考えたりしながら、表現できる学習活動を取り入れることが大切である。「米の消費量」「米の収穫高」「生産調整」に関わる複数の資料を関連させながら考えることが難しい児童に対しては、デジタル教科書等を活用して、一つ一つの資料を読み取ることができるように支援していくことも重要となる。

○「米の消費量」「米の収穫高」の変化を読み取れるようにする。

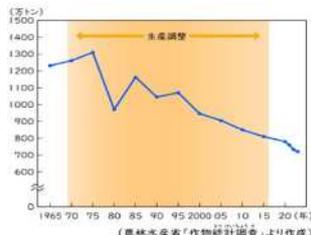
- デジタル教科書等を活用しながら、グラフの示し方を工夫する。その際、はじめからグラフの全てを見せるのではなく、少しずつ見せることで、児童は変化に気づきやすくなる。また、「米の消費量」「米の収穫高」を一つずつ読み取ること、関連付けもしやすくなる。米の消費量や収穫高の変化を読み取ることで、米づくりを取り巻く状況を理解させたうえで、その背景にある「生産調整」の解説につなげる。

○「生産調整」についての解説を行う。

- 「米の消費量」「米の収穫高」の関係を捉えてから「生産調整」の解説をし、国の取組について理解できるようにする。



資料2 日本人1人1年あたりの米の消費量の変化



資料3 米の収穫高の変化

このように、社会の学習において、グラフを提示する場面では、単に資料を見せるだけではなく、一部分を隠して変化に着目しやすしたり、1つずつ変化を読み取ってから比較したりするなどの工夫が日々の授業改善の視点となる。そうすることで、子どもたちが食料生産の課題について、自分の考えをもてるようになり、社会的な見方・考え方をはぐくむことにもつながっていく。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】 「米づくりのさかんな地域」 (実施対象学年 第5学年)

○米づくりを取り巻く変化に着目して、米の生産量・消費量の減少、農業従事者の減少、競争の変化といった日本の米づくりの課題を捉える。



これまでに「生産者の工夫や努力」「輸送の仕方」「米づくりの変化」などについて調べてきましたね。米づくりの変化などにもなって生産量は変化しているのでしょうか。

① 米の生産量と消費量の変化をグラフから読み取り、それぞれの変化を関連付けて分かることを話し合う。



まずは、生産量の変化について読み取りましょう。生産量はどのように変化していますか。

生産量は年々減ってきているのがわかります。



1965年から2020年までの55年間で、約400万トンも減っています。



次に、消費量の変化について読み取りましょう。消費量はどのように変化していますか。

消費量も生産量と同じで減っています。生産量が減ってきているから減ったのではないかと思います。



なぜ、「生産量」と「消費量」は減ってきているのでしょうか。調べていきましょう。

解説

- デジタル教科書で資料を提示する前に、米の生産量を予想して、資料を読み取る。消費量はどうなっていると思うかを生産量の情報を基に予想させる。
- デジタル教科書を活用し、「生産量の変化」のグラフを読み取ってから「消費量の変化」を読み取り、関連付けしやすくする。

【課題】 米の生産量や消費量はなぜ、減ってきているのだろうか。

② 農家の人の話やグラフなどの資料から、農家の人たちが心配していることを読み取り、まとめる。



今日の課題について予想をしてみましょう。

お米を食べる人が少なくなったから、お米の生産量が減ったのではないかな。



お米じゃなくてパンなどを食べる人が増えてきたから消費量が減ってきたと思うよ。



生産量が減ったから消費量が減ったと思うよ。田んぼや働く人が減ってきたのかな。



解説

- 予想をする際は、既習内容や生活経験などを基に考えられるようにする。



米の消費量が減った1960年代の後半からお米が余らないように生産量を抑えた取組を「生産調整」と言います。



この資料は「米の作付面積の変化」と「農業で働く人の数の変化」の資料です。どのようなことが分かりますか。

教科書P83のウのグラフを見ると、55年間で米の作付面積が半分になっていることが分かります。



教科書P83のエのグラフから農業で働く人が減っていて、高齢の方が多くなっていることが分かります。



2つの資料から農家の人たちはどのようなことを心配したり不安になったりしていると思いますか。

田んぼが減って米の生産量がどんどん減っていくことが心配なことだと思うよ。



若い人が減ってきていて、農業が続けられるのか不安になっていると思います。



これまで調べてきたことを整理すると、日本の米づくりで課題になっていることは何でしょうか。

お米の消費量が減り続けていることです。



生産者が減っていて、高齢の方が多いことです。



次の時間は、米づくりに関わる人たちはどのようにして課題を解決しているのかを調べていきましょう。

- 「生産調整」についてグラフを使いながら解説をする。
- 米づくりの課題として「米の生産量・消費量の減少」「農業従事者の減少」「競争の激化」の視点をおさえられるようにする。
- 農家の人の思いなどについては「米の生産量・消費量の減少」「農業従事者の減少」「競争の激化」の視点をもとに考えられるようにする。

解説

- これまでに読み取った情報をもとに米づくりの課題や農業従事者の方の思いを考え、まとめられるようにする。

II 小学校第6学年

I 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	<p>本問題は、主として「地理的環境と人々の生活」に関する内容を踏まえ、社会科の学習を行う上での基本となる知識が身に付いているかを確認するため、令和6年度市調査に続き本年度の調査でも出題した。</p> <p>(1) (2)では、令和6年度市調査と、方角や地図記号変更し、白地図などにまとめる際に必要となる地図記号などの基本的な知識が定着しているかを問うこととした。</p> <p>(3) (4)では、地域の平面地図や凡例から必要な情報を収集し、判断できるかを問うこととした。</p> <p>本問題では、資料の読み取りに関する課題の改善状況や定着度を把握するため、本年度市調査では、小5と小6で同一の問題を出題した。</p>
くらしと水	2	<p>本問題は、令和6年度市調査においても出題した。学習問題の追究や解決に必要な情報を集めたり、読み取ったりすることができるかを問うために出題した。</p> <p>(1)では、飲料水の確保について、水源地からさいたま市までの流路を適切に読み取ることができるかを確認するために出題した。</p> <p>(2)は、動画と地図を見比べて、動画の撮影地点を見沼代用水の流路図から適切に選択することができるかを確認するために出題した。</p>
くらしと産業を 変える 情報通信技術	3	<p>本問題は、令和6年度市調査でも出題した「情報や情報通信技術を活用する産業」に関する問題である。本単元は、大量の情報や情報通信技術の活用が様々な産業の発達や国民生活の向上につながることを理解しているかを問うこととした。</p> <p>(1)では、生活の中で情報がどのように活用されているか考え、適切に判断できるかを問うこととした。</p> <p>(2)では、メディアに携わる人の話を読み取り、情報の受け手として大切だと思うことを考え、正しく判断できるかを問うために出題した。</p>
自然災害とともに 生きる	4	<p>本問題は、令和6年度市調査で出題した「我が国の自然災害の状況」及び「日本国憲法と我が国の政治」に関連させた問題である。</p> <p>(1)では、資料から我が国の地震発生の特色を読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>(2)では、我が国における政治の基本的な仕組みを理解しているかを問うこととした。</p> <p>(3)では、資料を参考にして、日本国憲法の基本的な考えと国民生活を関連付けて選択することができるか、思考力、判断力、表現力を測る問題として出題した。</p>
飛鳥時代から室町時代の 主な文化	5	<p>本問題は、令和6年度市調査でも出題した「飛鳥時代から室町時代にかけての文化の様子」の理解に関する問題である。我が国の歴史を大観して理解し、文化と関連付けて選択することができるかを問うため出題した。</p> <p>(1)では、年表を手掛かりに、源氏物語絵巻が描かれた時代、その時代を代表する文化を判断することができるかを問う問題を出題した。</p> <p>(2)では、書院造の部屋の様子を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解しているかを問うこととした。</p>
日本の国づくりと 世界とのつながり	6	<p>本問題は、令和6年度市調査でも出題した「様々な時代における我が国の国づくりと、世界とのつながり」に関する問題である。本問題では、我が国の歴史の進展に大きな影響を与えた歴史上の事象について、資料を活用して考えることができるかを問うために出題した。</p> <p>(1)では、資料を参考に、8世紀頃の日本が大陸文化を摂取していたことを理解しているかを問うこととした。</p> <p>(2)では、年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉がどのような過程を経て戦国の世の統一を果たしたかを問うこととした。</p> <p>(3)では、X チャートで整理されている文章を読み取り、実際にどのようなことが行われたかを想像して、出来事と結び付けることができるかを問うため出題した。</p>
政治の変化による 時代の変遷	7	<p>本問題は、今年度新たに設定した問題である。「時代の移り変わりとともに、変化した世の中の様子、人物の働き」に関する問題である。我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えることができる力が身に付いているかを測るために出題した。</p> <p>(1)では、天皇中心の国づくりが目指されたことを資料から読み取り、選択することができる思考力、判断力、表現力を測るために出題した。</p> <p>(2)では、鎌倉幕府による政治の仕組みを理解しているかを問うこととした。</p> <p>(3)では、江戸幕府の政治の仕組みについて、資料 3～5の絵と資料6の思考ツールを見比べて、どのような意図で統制が行われ、江戸時代の政治が安定したか、資料を関連付けながら考えることができる思考力、判断力、表現力を測る問題として出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第6学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1	(1)	八方位(北西)を理解している。	○			○		選	76.2	0.1	R6市【小6】	74.8	小5	80.0
	(2)	郵便局と畑の地図記号を理解している。	○			○		選	45.6	0.1	R6市【小6】	91.8	小5	46.5
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取り、考えることができる。	○				○	選	69.6	0.1	R6市【小6】	76.1	小5	62.9
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考えることができる。	○				○	選	86.7	0.1	R6市【小6】	84.6	小5	82.2
2	(1)	飲料水が供給される流路を、資料から読み取ることができる。	○			○		選	59.2	0.2	R6市【小6】	69.4		
	(2)	見沼代用水の流路図を読み取ることができる。	○			○		選	55.2	0.1	R6市【小6】	58.4		
3	(1)	大量の情報や情報通信技術がスーパーマーケットで活用されているよさを資料から考えることができる。		○			○	選	88.4	0.1	R6市【小6】	89.8		
	(2)	情報を有効に活用することについて、情報の受け手と送り手のそれぞれの立場から考えることができる。		○			○	選	84.5	0.1				
4	(1)	国土の自然災害の状況について理解している。		○			○	選	69.9	0.1	R6市【小6】	80.0		
	(2)	法律がつくられるまでの過程から、国の政治の仕組みを読み取ることができる。		○			○	選	77.3	0.1	R6市【小6】	75.0		
	(3)	日本国憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けて、憲法の特色や役割を考えることができる。		○			○	選	66.2	0.2	R6市【小6】	65.9		
5	(1)	年表を手掛かりに、源氏物語絵巻が描かれた時代と、その時代の文化を選択することができる。			○		○	選	57.4	0.3	R6市【小6】	62.7		
	(2)	書院造の部屋や生け花の様子を手掛かりに、室町時代に広まった文化を選択することができる。			○		○	選	66.6	0.1	R6市【小6】	67.8		
6	(1)	資料を手掛かりに、8世紀頃の我が国が大陸文化を摂取していたことを読み取ることができる。			○		○	選	77.0	0.2	R6市【小6】	75.2		
	(2)	年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考えることができる。			○		○	選	74.2	0.2				
	(3)	思考ツールに整理されている内容を読み取り、具体的な出来事について考えることができる。			○		○	選	79.9	0.3				
7	(1)	天皇中心の国づくりが目指されたことを資料から読み取り、考えることができる。			○		○	選	89.5	0.2				
	(2)	鎌倉幕府によって築かれた政治の仕組みを理解している。			○		○	選	73.3	0.4				
	(3)	資料を見比べながら、江戸時代の政治の仕組みについて考えることができる。			○		○	選	72.0	0.5				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第6学年】

設問番号	正答例	解説（考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等）	
1	(1)	1	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、学校のまわりは東・西・南・北の四方位によって様子がちがう場合があることを学習しました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の「あ」は「北」と「西」の間に当たるので、1の「北西」が正答です。
	(2)	2	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地域の様子を地図から読み取りやすくなります。示されている地図記号は郵便局と畑なので、正答は2です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用して確かめましょう。
	(3)	1	資料2にある地図記号と、「はんれい」にある土地の高さを見比べて考えましょう。芝川の周りは土地が低くなっており、田や畑が集まっています。一方の鉄道や大きな道路の周りには、郵便局や図書館などの人が集まる施設が集まっています。
	(4)	2	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わりと、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と比べて、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林は減ったことが分かります。
2	(1)	1	水がどのようにわたしたちのもとに届くのかを、資料から読み取る問題です。資料1から、埼玉県の水場に取り入れている水は、埼玉県だけでなく群馬県からも流れているため、1はふさわしくないとはいえます。
	(2)	1	見沼代用水の流路について、資料から考える問題です。映像と説明により、見沼代用水が水を取り入れている利根川からの取水口だと分かります。
3	(1)	3	スーパーマーケットでの情報の利用について、資料から読み取る問題です。資料1から、スーパーマーケットでは商品の売れ行きなどのデータを活用して商品を発注し、売れ残りも売り切れも起きないようにしていることが分かります。
	(2)	【あ】4 【い】2 (完答)	情報を利用するとき大切なことについて、情報の送り手と情報の受け手の両方の立場から考える問題です。資料3のソーシャルメディアを運営する担当者の話や新聞記者の話からは、情報の送り手が、あいまいな情報や誤った情報、人を傷つける情報を送らないよう心がけていることが分かります。また、情報の受け手としては、様々なメディアが情報を発信しているため、様々な情報と見比べて、正しい情報かどうか確かめることが重要であると分かります。
4	(1)	2	国土の自然条件などと関連して、全国各地で自然災害が発生していることについて考える問題です。資料1から、日本では国土には広いはん囲にわたって火山や震源となつたところがあり、これまでに大きな地しんが起きてきたことが分かります。
	(2)	4	国の法律ができる過程や、国会の衆議院と参議院のちがいについて考える問題です。資料2から、法律ができるまでには衆議院と参議院とで何度も話し合いを行い、しん重に決めていることが分かります。
	(3)	3	【あ】は、日本国憲法の基本的な考え方について、【い】や【う】は、国民の意見と政治がどのように関連しているかについて、当てはまる言葉を考える問題です。【あ】には「国民主権」、【い】には「選挙」、【う】には「世論」が当てはまります。
5	(1)	4	源氏物語絵巻（げんじものがたりえまき）がえがかれた時代と、同じ時代の文化を選ぶ問題です。大和絵（やまとえ）の1つである源氏物語絵巻には、貴族（きぞく）の生活の様子がえがかれています。同じ時代には漢字をくずした「ひらがな」や、漢字の一部をとった「かたかな」など、日本風の文化が生まれました。
	(2)	1	今も残る生活文化の中で、室町時代に広まったものを選ぶ問題です。室町時代には、現在の和室につながる書院造の部屋で、生け花や茶の湯がさかんに行われました。
6	(1)	2	8世紀ごろの日本と世界のつながりについて考える問題です。資料1～4から、日本は外国と人や物の行き来があったことが分かります。
	(2)	4	戦国の世が統一されていく過程で、織田信長や豊臣秀吉の行ったことを考える問題です。織田信長は、戦（いくさ）で鉄砲（てっぽう）を使うなどして周囲の有力な大名をたおし、室町幕府をほろぼしました。また、キリスト教を保護し、楽市・楽座などの政策を行いました。織田信長のあとをついだ豊臣秀吉は検地や刀狩りを行い、全国を統一しました。
	(3)	3	明治時代の国づくりについて、資料をもとに、思考ツールに情報を整理して考える問題です。資料8の【A】には工業の力を高めることに関する出来事が当てはまるため、工業に関する出来事であるイの「富岡製糸場がつくられる」が入ります。また、【B】には戦争に強い国をつくることに関する出来事が当てはまるため、ウの「徴兵令が出される」が入ると分かります。
7	(1)	1	古墳時代から奈良時代にかけての歴史新聞の記事のタイトルとしてふさわしいものを選ぶ問題です。記事の下書きからは、聖徳太子によって天皇中心の国づくりが目指されたことや、その後、後に天智天皇となる中大兄皇子によって大化の改新が行われたこと、さらに、聖武天皇によって仏教の力を借りた国づくりが行われたことが分かります。そのため、1の「天皇中心の国づくりをめざして」が正答です。
	(2)	2	武士の時代のはじまりにおいて、源頼朝が行ったことを考える問題です。源頼朝は、御家人としてしたがった各地の武士に領地の支配を認める「ご恩」と、土地の支配を認めるかわりに戦いのときにはかけつけて將軍のために戦う「奉公」の関係をつくりました。鎌倉幕府は、「ご恩と奉公」の関係を基礎として、武士による政治を進めました。
	(3)	1	江戸幕府が行った政治の意図について、資料をもとに、思考ツールにまとめながら考える問題です。参勤交代により江戸にきた大名は、幕府との主従関係を確認させられました。これには、大名に反乱を起こさせない意図があったと考えられます。また、江戸幕府のもとでは、人々は身分に分けられました。幕府は農村や漁村、山村に住む百姓に対して年貢をおさめさせるとともに、五人組というしくみをつくり、年貢をおさめられない者や罪をおかす者がいると共同で責任を負わせるようにしました。

4 特徴的な問題と解説

小学校第6学年「明治の新しい国づくり」

【特徴的な問題】

6 (3) ひろしさんたちは、以下の資料7を参考にしながら明治時代のできごとを詳しく調べて、明治時代の国づくりについて、資料8のように整理しています。資料8の【A】と【B】に当てはまる資料7のア～エのできごとの組み合わせとして正しいものを、次の1～4から一つ選びましょう。

出題の趣旨

本問題は、令和5年度及び令和6年度市調査【小6】でも出題した「様々な時代における我が国の国づくりと、世界とのつながり」に関する問題である。Xチャートで整理されている文章を読み取り、実際にどのようなことが行われたかを想像して、出来事と結び付けることを求めている。

指導のポイント

○ 明治の新しい国づくりについて、明治時代の近代化の特色を出来事や人物と関連付けながらまとめ、説明できるようにする。

学習問題
明治の新しい国づくりは、何を目指して、どのように進められたのだろう。

年	出来事
1868	元号が明治にかわる
1869	版籍奉還が行われる
1871	廃藩置県が行われる …… ア 岩倉使節団が発発する
1872	学校制度がつくられる 『学問のすゝめ』が出版される 富岡製糸場がつくられる …… イ
1873	徴兵令が出される …… ウ 地租改正が行われる …… エ

既習事項をまとめたり、年表を活用したりすることにより、流れを理解しやすくなる。

国民中心の政府をつくる
江戸幕府に代わって、天皇を中心とした政府がつけられた。新しい政治の方針が茶の餅文として書かれた。政治や社会の改革が進められた。
できごと
・版籍奉還が行われる

産業の力を高める
産業を発展させるために、各地に官営工場をつくった。
外国から技術者を雇ったり、外国から機械を買ったりして、進んだ技術や知識を教わった。
できごと
・富岡製糸場がつくられる

国民に強い国をつくる
国民による西洋式の強い軍隊をつくるために、20歳以上の男子すべてに兵役の義務を定めた。
できごと
・徴兵令が出される

人々の暮らしが変わる
東京や大阪などの都市を中心に、西洋ぶりの暮らしや文化が広がった。人々の服装やまちなみも大きく変わった。また、政府はすべての子どもに教育を受けさせようと、全国に小学校をつくらせた。
できごと
・学校制度がつくられる

学習問題のこたえ
明治の新しい国づくりは、天皇を中心とした国民の力で強い国を目指して、西洋の文化やしくみを取り入れながら、新しい政治や社会のしくみをつくった。

記述を学習問題の答えと矢印でつなぐことで、自分の考えについて根拠をもって示すことができる。

要素を跨いで線をつなぐことにより、関連付けて考えることができるようになる。

日々の授業改善の視点として、学習問題の立て方について取り上げる。学習問題は、個人で考えるだけでなく、互いの考えを交流させることにより、多角的に社会の様子を捉えていくということが大切である。一人ひとりが既習事項や資料を基に、出来事や人物との関連をまとめ、議論することができるように授業を展開することが重要となる。

単元全体やその後の学習とのつながりなど、学習の見通しをもち、社会的事象の見方・考え方を働かせることで児童が学びを深められるよう、支援していきたい。

【学びの知恵袋（授業アイデア例）】 「明治の新しい国づくり」（実施対象学年 第6学年）

○明治時代の新しい国づくりについて、これまで調べてきたことを振り返り、明治時代の近代化の特色をチャートに整理し、出来事や人物、行った目的などと関連させることにより、明治時代の日本の近代化の特徴を捉えられるようにする。

	<p>明治時代の新しい国づくりについてまとめます。学習問題は「明治の新しい国づくりは、何を目標として、どのように進められたのだろうか。」でした。学習問題についての自分の考えをまとめましょう。</p>
<p>① 学習問題「明治の新しい国づくりは、何を目標として、どのように進められたのだろうか。」を確認し、単元の学習を振り返る。</p>	
	<p>江戸時代の幕末から明治時代の初めの頃にはどのような出来事がありましたか。</p>
<p>黒船がやってきて日本は開国しました。</p>	
<p>天皇中心の新しい政府ができました。</p>	
<p>版籍奉還<small>はんせきほうわん</small>や廃藩置県<small>はいはんちけん</small>などが行われました。</p>	
<p>富岡製糸場<small>とみおかせいじょう</small>ができて産業が発展したり、徴兵令<small>ちやうへいれい</small>が出されて軍隊がつくられたりしました。</p>	
<p>② 調べてきたことを、チャートに整理する。</p>	
	<p>これまで計画に沿って学習を進めてきました。明治時代にどのような国づくりが行われたのか、調べたことをチャートに整理しましょう。</p>
<p>チャートのそれぞれの要素に小見出しを付けることで、何についてまとめているのか分かりやすくなります。</p>	
<p>出来事や人物のイラストなども記入すると、実際に行われたことや、人の思いも考えることができ、当時のことを意識しやすくなります。</p>	
<p>＜解説＞</p> <p>○学習問題を改めて確認し、具体的に調べたことから自分なりの答えをまとめることを意識させることが大切である。</p> <p>○出来事や人物を振り返ることにより、既習事項を確認するとともに、明治時代の近代化の特色と関連させたり、総合させたりしやすくなる。</p> <p>○チャートに整理することのよさとして、調べたことの整理がしやすいことや、学習問題について多角的に考えられることが挙げられる。また、チャートの中央に学習問題のこたえを配置することで、各要素とのつながりを集約しやすくなる。</p> <p>○単元全体を見通して、小单元ごとにまとめてクラウド（Canva等）に保存しておくことで、付け足しながら比較することができる。その際、</p>	

<p>矢印を活用すると、他の要素との関連も理解しやすくなります。</p> 	<p>年表と重ねてまとめることで、歴史の展開から歴史を学ぶ意味を考え、表現することを促すことができる。</p>
<p>③ 整理したチャートをもとに、学習問題の答えについて友達と考えを議論する。</p>	
 <p>明治時代の国づくりについて、そのように書いた理由を話し合しましょう。</p>  <p>欧米の国々に負けない強い国を目指していたのではないかと考えます。なぜなら日本は地租改正や徴兵令を行っていたからです。</p>  <p>私は殖産興業も大事だと思います。殖産興業によって、日本が豊かで強い国を目指したと思います。</p>	<p><解説></p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとめたことを友達と交流することにより、多様な考えに触れ、社会的事象な見方・考え方を働かせて、深い学びを促すことができる。 ○社会的事象の見方・考え方を働かせながら考えたことを表現できるよう、マイテーマを設定してまとめる等、多角的な思考や理解ができるようにするとよい。 ○児童が友達との交流を通して、自分の考えに付け足しをしたり、修正を加えたりするなど、教師は交流の視点を与えるとよい。

Ⅲ 中・中等教育学校 第1学年

Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

<p>世界と日本の 地域構成</p>	<p>1</p>	<p>本問題は、地理的分野の大項目「A 世界と日本の地域構成」について調査するものである。世界と日本の地域構成を大観し理解しているかをみるために出題した。</p> <p>中項目「① 世界の地域構成」については、地球上の位置を緯度・経度を用いて表すことができるか、各種の世界地図を活用して地球規模の位置関係を捉えることができるかを問うこととした。</p> <p>中項目「② 日本の地域構成」については、日本と世界各地との時差を調べることができるか、地球上における日本と世界各地との位置関係を理解しているかを問うこととした。</p> <p>なお、設問(5)は、動画を活用して地球上の位置関係を正しく捉えることができるかを問う問題(第2学年と同一問題)であり、デジタルの優位性を生かした出題形式となっている。</p>
<p>世界各地の人々の 生活と環境</p>	<p>2</p>	<p>本問題は、地理的分野の大項目「B 世界の様々な地域」のうち中項目「(1) 世界各地の人々の生活と環境」について調査するものである。世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現することができるかをみるために出題した。</p> <p>「知識及び技能」に関わる事項としては、世界的に広がる宗教の分布について分布図を用いて大まかに理解しているかを問うこととした。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項としては、世界各地における人々の生活の特色がなぜ生み出されているのかについて、人々の衣食住の特徴を捉えることを通して、自然及び社会的条件との関係について考察を深めているかなどを問うこととした。</p>
<p>歴史との対話 古代までの日本</p>	<p>3</p>	<p>本問題は、歴史的分野の大項目「A 歴史との対話」、「B 近世までの日本とアジア」のうち中項目「(1) 古代までの日本」について調査するものである。年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解しているか、小学校の学習を踏まえて歴史上の人物や文化財などと時代区分との関わりなどについて考察し表現することができるかをみるために出題した。</p> <p>「歴史との対話」については、世紀、西暦、元号の互いの関係や、時代を区分することの意味や意義などについて理解しているかを問うこととした。</p> <p>「古代までの日本」については、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができるかを問うこととした。</p>
<p>古代までの日本</p>	<p>4</p>	<p>本問題は、歴史的分野の大項目「B 近世までの日本とアジア」のうち中項目「(1) 古代までの日本」について調査するものである。日本の古代までの特色を、世界の動きとの関連を踏まえて理解しているかをみるために出題した。</p> <p>「知識及び技能」に関わる事項としては、地図や文献など様々な資料を活用して情報を読み取り、大和朝廷(大和政権)の勢力の広がりや律令国家の確立に至るまでの過程を大きく捉えることができるかを問うこととした。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項としては、世界の古代文明や律令国家の形成について、事象相互の関連を多面的・多角的に考察することができるかを問うこととした。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第1学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の分野・項目						評価の観点		問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		世界と日本の地域構成	世界の様々な地域	日本の様々な地域	歴史との対話	近世までの日本とアジア	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式・短答式・短題	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名(1学年)	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1	(1) 世界の地域構成を大観し、世界の地域区分について理解している。	○					○		選	70.8	0.0	R6市【甲1】	65.5	中2	65.9	
	(2) 統計資料を読み取り、主な国々の人口密度を比較することができる。	○					○		選	38.8	0.4					
	(3) 世界地図の特色に留意し、様々な地図を目的に応じて適切に活用することができる。	○					○		選	56.9	0.1					
	(4) 中心からの距離と方位が正しい地図を読み取ることができる。	○					○		選	51.9	0.1	R6市【甲1】	43.9			
	(5) 大陸と海洋の分布などに着目して、地球上の位置関係を正しく捉えることができる。	○					○		選	77.5	0.1	R6市【甲1】	72.7	中2	82.0	
	(6) 地球上の位置を緯度・経度を用いて表すことができる。	○					○		選	61.0	0.1					
	(7) 日本と世界各地との時差を調べることができる。	○					○		選	29.5	0.2	R6市【甲1】	28.6			
2	(1) 位置や分布に着目して、世界各地の自然環境の違いについて理解している。	○					○		選	57.6	0.2	R6市【甲1】	60.1			
	(2) 伝統的な住居の特色と、その地域の自然的条件との関係を考察することができる。	○					○		選	59.1	0.1	R6市【甲1】	84.5	中2	67.6	
	(3) 伝統的な衣服の特色と、その地域の自然的条件との関係を考察することができる。	○					○		選	87.8	0.1	R6市【甲1】	86.1			
	(4) 伝統的な食事の特色と、その地域の自然的条件との関係を考察することができる。	○					○		選	64.3	0.1	R6市【甲1】	91.4			
	(5) 人々の生活が、その地域の自然的条件から影響を受けていることについて考察することができる。	○					○		選	59.6	0.1	R6市【甲1】	62.2			
	(6) 世界の主な宗教の分布について理解している。	○					○		選	66.9	0.1	R6市【甲1】	71.0			
3	(1) 時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。				○		○		選	63.2	0.1			中2	71.2	
	(2) 小学校での学習を踏まえ、文化財と時代区分との関わりについて考察することができる。				○		○		選	78.6	0.1	R6市【甲1】	71.6	中2	79.7	
	(3) 年代の表し方についての基本的な内容を理解している。				○		○		選	43.7	0.2	R6市【甲1】	42.4	中2	50.6	
	(4) 日本列島における農耕の始まりについて理解している。					○	○		選	70.7	0.2	R6市【甲1】	71.9			
	(5) 政治の変化に着目して、古代までの社会の変化の様子を考察することができる。						○	○	選	56.6	0.2	R6市【甲1】	64.9			
	(6) 文化の特色に着目して、古代までの社会の変化の様子を考察することができる。						○	○	選	69.2	0.2	R6市【甲1】	71.8			
4	(1) 古代文明が起こった場所や環境などに着目し、文明の特徴を比較して考察することができる。					○	○		選	56.2	0.2	R6市【甲1】	58.6			
	(2) 文献資料を活用し、東アジアとの関わりの中で国家が形成されていったことを読み取ることができる。						○	○	選	41.8	0.3					
	(3) 古墳の広まりに着目して、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を理解している。						○	○	選	62.1	0.3	R6市【甲1】	61.4			
	(4) 聖徳太子の政治に関する資料から、国家の仕組みが整えられたことを読み取ることができる。						○	○	選	53.9	0.3	R6市【甲1】	51.5			
	(5) 律令国家の政治に関する事象の背景や影響を考察することができる。						○	○	選	29.6	0.3					
	(6) 東アジアとの関わりや摂関政治などに着目して、古代の社会の変化の様子を考察することができる。						○	○	選	48.5	0.6					

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査、「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校 社会 第1学年】

設問番号	正答例	解説(考え方・ポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等)
1	(1) ①…A、②…F (両方できて正解)	地図1中のAはユーラシア大陸、Bは北アメリカ大陸、Cはアフリカ大陸、Dはオーストラリア大陸、Eは南アメリカ大陸、Fは南極大陸です。①二つの州に区分されている大陸はユーラシア大陸で、アジア州とヨーロッパ州に区分されています。②どの州にも属していない大陸は南極大陸です。
	(2) エ	人口密度は人口を面積で割ることで計算できます。人口が少なくても、せまい面積に大勢の人が暮らしていれば人口密度は高くなります。表1の数値を基に計算をすると、表1の中で人口密度が最も低い国はアメリカ合衆国であると分かります。
	(3) ①…イ、②…ア (両方できて正解)	オーストラリア大陸は六大大陸の一つですが、グリーンランドは大陸ではなく島であるため、オーストラリア大陸の方が面積が大きいです。しかし、世界地図は地球の姿を正確に表すことができません。緯線と経線が直角に交わった地図では、赤道からはなれるほど、実際の面積よりも大きく示されます。
	(4) ウ	日本(さいたま市)から東(右)に進むとはじめに通る大陸は、緯線と経線が直角に交わった地図では北アメリカ大陸のように見えますが、これは正しくありません。中心からの距離と方位が正しい地図を見ると分かるように、正しくは南アメリカ大陸です。なお、この地図では、中心からはなれるほど陸地の形がゆがんで表されます。
	(5) ウ	ある地点から地球の中心に引いた線をのばして、地球上の正反対にあつた地点を対蹠点(たいせきてん)といいます。例えば、北緯36度、東経140度(東京のおおよその位置)の対蹠点は南緯36度、西経40度で、南アメリカ州のウルグアイ沖の大西洋上になります。図1は南アメリカ大陸の北部、赤道直下(緯度0度)で西経60度付近の位置を中心として映っていますので、その対蹠点は同じく赤道直下(緯度0度)、東経120度付近の位置となり、これを中心として映しているウが正答ということになります。
	(6) ①…ウ、②…イ (両方できて正解)	0度の緯線(横線)を赤道といい、これより北(上)の緯度は北緯、南(下)は南緯で表します。同様に、0度の経線(縦線)を本初子午線といい、これより東(右)の経度は東経、西(左)は西経で表します。
	(7) ①…ウ、②…イ (両方できて正解)	地図を見ると、日本とロサンゼルスとの経度の差は、「日本から本初子午線までの経度」と「本初子午線からロサンゼルスまでの経度」を足せば求められることが分かります。そのため、東経135度の日本と西経120度のロサンゼルスとの経度の差は255度となります。したがって時差は、255(度)÷15(度)という計算で求められ、17時間と分かります。地球は西から東へ24時間で1回転し、日付変更線を越えるときに日付を1日進めるため、本初子午線から見て、より東にある日本の方が、ロサンゼルスよりも先に1日が始まります。
2	(1) ア	気温が低く、1年を通して気温の変化が少ないことから、図1は高山気候です。季節の変化がはっきりしており、夏に雨が少ないことから、図2は温帯(地中海性気候)です。1年のほとんどの期間で平均気温が0度を下回ることから、図3は寒帯です。年間を通して気温が高いことから、図4は熱帯です。
	(2) ①…エ、②…イ (両方できて正解)	地図2中で示されている地域は熱帯に属しており、一年中高温で、雨が多いという特徴があります。そのため家屋には、暑さや大雨をしのぎ、地面からの湿気を防ぐため、風通しの良い壁と、高床にしているといった工夫がされています。資料1でも、住居が高床になっていることが分かります。
	(3) エ	寒帯は、北極や南極に近い地域に分布しています。寒帯に暮らす人々は、厳しい寒さを防ぐため、防寒性に優れた動物の毛皮を用いて衣服を作り、着用してきました。
	(4) イ	ローマでは、夏に雨が少なく乾燥する気候を利用して、イラストに見られるようなオリーブやぶどう、小麦が栽培されています。
	(5) ①…ア、②…エ (両方できて正解)	赤道に近い地域は気温が高く、北極や南極に近い地域は気温が低いことから、緯度の違いによって気温は異なるといえます。人々は、その地域の自然環境に合わせて工夫をしながら生活をしてきました。
	(6) ①…ウ、②…イ (両方できて正解)	キリスト教・イスラム教・仏教は、世界の広い範囲で信仰されています(三大宗教)。キリスト教は、ヨーロッパや南北アメリカなどを中心に信仰されており、世界で最も多くの信者がいます。イスラム教は、西アジアや北アフリカなどを中心に信仰されています。仏教は、東アジアや東南アジアなどを中心に信仰されています。ヒンドゥー教の分布している地域は、三大宗教のように広くありません。しかし、主に信仰されている地域であるインドの人口が多いことから、ヒンドゥー教徒の人口はキリスト教・イスラム教に次いで3番目に多くなっています。
3	(1) ①…ウ、②…ア (両方できて正解)	時代の名称には、「奈良時代」や「江戸時代」のように政治の中心地の地名が使われているものや、「明治時代」や「昭和時代」のように元号(中国にならって取り入れられた時代の名称)が使われているものなどがあります。なお、時代の区切り方にはさまざまな考え方があります。
	(2) イ	東大寺の大仏は古代(奈良時代)、慈照寺銀閣は中世(室町時代)、富岡製糸場は近代(明治時代)に造られました。
	(3) エ	世紀は西暦を100年ごとに区切る表し方です。紀元1年から100年までを「1世紀」、101年から200年までを「2世紀」と表すため、「20世紀」は1901年から2000年までを指します。
	(4) イ、ウ (両方できて正解)	縄文時代から弥生時代にかけての大きな変化として、稲作のはじまりがあります。弥生時代のむらには、高床倉庫が造られ、収穫した稲を保管していました。また、戦いに備えて、むらの周りに柵やほりなどが造られました。
	(5) ア	カードAは聖武天皇(奈良時代)、カードBは聖徳太子(飛鳥時代)、カードCは藤原道長(平安時代)、カードDは中大兄皇子(のちの天智天皇)(飛鳥時代)について記述されています。中大兄皇子が活躍したのは聖徳太子のあとの年代であるため、古い順に並べると、聖徳太子→中大兄皇子→聖武天皇→藤原道長となります。
	(6) ウ	正倉院は奈良時代、法隆寺は飛鳥時代、平等院鳳凰堂は平安時代、大仙古墳は古墳時代に造られました。古い順に並べると、大仙古墳→法隆寺→正倉院→平等院鳳凰堂となります。
4	(1) ①…ウ、②…エ (両方できて正解)	地図を見ると、四つの古代文明は、アフリカとアジアの大河のほとりて発展しており、いずれも赤道からはなれた北緯30度付近に分布していることが分かります。古代文明では暦が考え出され、現在使われているカレンダーの起源にもなりました。
	(2) ア	カードBには、紀元前1世紀頃の日本について「100以上のくにに分かれている」「定期的に(漢に)みつぎものをすくにもある」と書かれていることから、選択肢Aは正しく、イは誤りであることが読み取れます。また、選択肢ウの「邪馬台国」が存在したのは2世紀後半から3世紀であり、中国の歴史書である魏志倭人伝にその記述があります。選択肢エの「倭の奴国の王」は1世紀半ばに漢に使いを送り、皇帝から金印を授けられました。このことは、中国の歴史書「後漢書」に記述があります。
	(3) エ	地図を見ると、前方後円墳は3世紀ごろに現在の奈良県を中心とする地域で造られ、5世紀ごろになるとその分布が九州地方から東北地方南部までの地域に広がったことが分かります。現在の埼玉県や熊本県に造られた前方後円墳から「大王」の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土していることから、大和政権の王が勢力をを広げ、「大王」と呼ばれるようになったと考えられます。
	(4) ①…イ、②…ア (両方できて正解)	系図から、聖徳太子は推古天皇の兄弟の子であり、おおいであることが読み取れます。聖徳太子は、十七条の憲法で役人の心構えを示すことなどによって、天皇(大王)を中心とする政治の仕組みを作ろうとしました。
	(5) ①…ウ、②…ア (両方できて正解)	口分田は6歳以上の人々に対し、性別や身分に応じてあたえられました。この口分田が不足したことから、朝廷は人々に開墾をすすめ、三世一身法、続いて墾田永年私財法を出しました。墾田永年私財法では、新しく開墾した土地は、租を納めることと引き換えに、いつまでも私有地としてよいとされたため、貴族や寺院がさかんに私有地を広げ、こうした私有地が荘園と呼ばれるようになりました。私有地である荘園が増えたことで、公地・公民の原則がくずれはじめることとなりました。
	(6) ア	大宝律令の完成後、奈良時代の日本は、唐に遣唐使を送り、唐の制度や文化を取り入れました。その後、奈良時代の後半に政治が混乱すると、政治を立て直そうとした桓武天皇が都を平安京に移し、平安時代がはじまりました。平安時代には、藤原道長などの藤原氏が摂政や関白の職に就いて摂関政治を行いました。また、このころには唐の影響が弱まり、日本風の文化である国風文化が生み出され、仮名文字が作られました。

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第1学年 地理的分野「世界と日本の地域構成」

【特徴的な問題】

1

(7) ひろしさんは、先生と時差について話しています。

ひろしさん

ロサンゼルスの大リーグ野球中継を学校前に家のテレビで見ました。ロサンゼルスは何時なのでしょう。

先生

この地図で考えると分かりやすいですね。日本とロサンゼルスの間には本初子午線があるので、経度が何度はなれているかは、①と求めることができますね。

先生

地図の中に、日付変更線がありますね。この日付変更線を東から西へこえるときに日付を1日進めます。

先生

時差の計算方法を一緒に考えてみましょう。360度÷24時間で、経度15度ごとに1時間の時差が生じましたね。

先生

はい。日本とロサンゼルスの経度の差がどのくらいあるかを計算して、それを15度で割れば時差が分かりますね。日本の標準時は、東経135度を基準に定められています。ロサンゼルスは、西経120度ですね。東経135度と西経120度だと、経度の差は何度になるのでしょうか。

ひろしさん

それを15度で割ると時差が分かりますね。日本とロサンゼルスでは、どちらの方が時間が進んでいるのかな。どちらが先に1日が終わるかを考えれば分かるでしょうか。

ひろしさん

上文中の①、②に当てはまるものを、次のア～エの中から正しいものを2つ選びなさい。

出題の趣旨

本設問は、日本と世界各地との時差を調べることができるかどうかをみるために出題した。社会科において時差を学習する意義は、日本と世界各地との時差を調べることを通して、地球上における日本と世界各地との位置関係を理解できるようになることである。指導に当たっては、日常生活と結び付けて時差の概念を理解し、活用できるようにすることが重要である。

指導のポイント

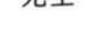
○ 目的に応じて適切な資料を選んで読み取る。

日本と世界各地との時差を調べることができるようにするためには、時差が経度のちがいによって生じていることや、世界各国の標準時について、本初子午線を基準に東では進んでおり、西ではおかれていることなどを理解する必要がある。こうしたことを視覚的に捉えるためには、日本を中心にした地図よりも、経度0度を中心にした地図を用いた方が適している。このように、目的に応じて適切な資料を選んで読み取る技能を身に付けることができるよう、繰り返し指導することが大切である。

○ 資料から新たな問いを立てる。

資料を読み取り、気付いたことや感じた疑問を共有することで、新たな学びにつなげることができる。例えば、これまでに学習した内容との共通点や相違点に着目して問いを立てることが考えられる。その際、端末を活用することで、生徒の気づきや疑問を集約したり、相互に参照したりすることが可能となる。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

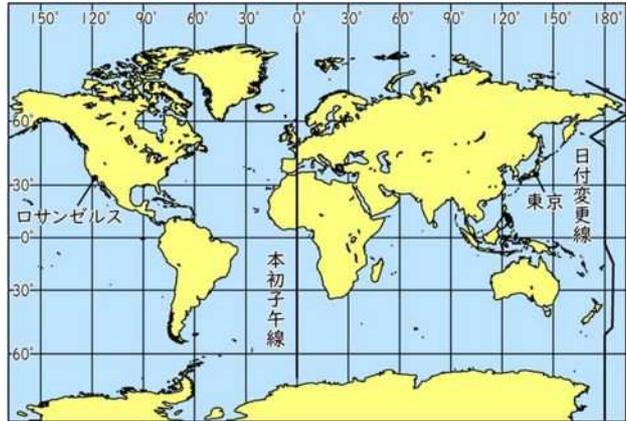
<p>「日本と世界各地との時差を調べよう」 ～目的に応じて、適切な資料を選んで読み取る～ ～資料から新たな問いを立てる～</p>	<p>〈実施対象学年〉 第1学年</p>
<p>① 世界各地のおおよその経度を調べる。</p>	
 先生	<p>ここまで、「経度 15 度につき 1 時間の時差が生じる」ことを学習してきましたね。それでは、イギリスのロンドンと、アメリカのロサンゼルス为例に、日本との時差を調べてみましょう。</p>
 先生	<p>なんだか難しそうだな。まずは、それぞれの地域の経度を調べればいいのか。でも、どれくらい細かく調べたらよいのだろう？「経度 15 度につき 1 時間の時差が生じる」から、15 の倍数で表せばよいのかな？</p>
 先生	<p>そのとおりです。では、地球儀や世界地図を使って、まずそれぞれの場所のおおよその経度を調べましょう。</p>
 先生	<p>ロンドンは経度 0 度、ロサンゼルスは西経 120 度だね。</p>
<p>② 経度の差から時差を求める。</p>	
 先生	<p>では次に、日本とそれぞれの地域の経度の差を調べてみましょう。</p>
 先生	<p>日本とロンドンの経度の差は「135 度」だね。日本とロサンゼルスの経度の差は、日本と本初子午線との差が 135 度、本初子午線とロサンゼルスとの差が 120 度だから、足して「255 度」かな。</p>
 先生	<p>ちょっと待って。地球儀で調べると、日本とロサンゼルスの経度の差は、本初子午線を通らない方が小さいよ。だから、「105 度」じゃないかな。</p>
 先生	<p>地球は球体なので、日本とロサンゼルスの経度の差は、「255 度」と「105 度」のどちらも正しいといえます。ただし、東経の地域と西経の地域の時差を求めるときは、ひろしさんのように本初子午線を基準にして求めます。なぜでしょうか？</p>
 先生	<p>ロサンゼルスの標準時の一つだから、経度の差の求め方も一つに決めておく必要があるんだね。日本との時差は、日本との経度の差をそれぞれ 15 で割れば求められるから、ロンドンとの時差は「9 時間」、ロサンゼルスとの時差は「17 時間」かな。</p>
<p>はじめから解き方(課題の解決方法)を教えるだけでなく、地球儀や世界地図などを使って試行錯誤をする中で「なぜこのように求めるのか」を生徒自身が考える機会を設定することも重要である。東経の地域と西経の地域の間の時差を求める学習は、多くの生徒がつまずきやすい内容であるが、こうした学習のときこそ、生徒が感じる疑問を大切に授業を展開したい。</p>	

③ 地図を使って時差を調べる。



先生

経度の差や時差を調べるときは、計算だけでなく、地図を使って調べることができます。どの地図を使って調べるとよいでしょうか？教科書や地図帳から探してみましょう。

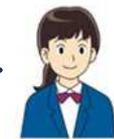


世界地図は、目的に合わせて選ぶのが大切だね。「経度0度を中心にした地図」が使いやすいんじゃないかな。



ひろしさん

経線が経度15度ごとに引かれていて、本初子午線が中央にあるね。いつも見ている日本を中心にした世界地図とはちがって見えるね。



あかりさん

④ 地図から問いを立て、新たな学びにつなげる。



先生

この地図のほかに、日本との時差で色分けした地図もあります。これらの地図を見て気付いたことや、疑問に思ったことを挙げてみましょう。

日本は世界の中でも時間が進んでいる国なんだね。日付変更線を越えると日付を調整するんだ。でも、どうして日付変更線は曲がっているのだろう？



ひろしさん

アメリカは国土が東西に広いから、国の中に標準時がいくつもあるんだね。でも、中国も東西に広いのに標準時は一つだけ。どうして標準時の設定の仕方は国によって異なるのだろう？



あかりさん



先生

どれも大切な問いですね。では、残りの時間を使って、皆さんが立てた問いについて調べてみましょう。

目的に合わせて適切な資料を選んで読み取る技能は、確実に身に付けておきたい地理的技能の一つである。また、社会科における時差の学習の主眼は、計算の技能を身に付けることよりも、地球上における日本の位置の特色や、時差という社会的事象の意義に気付くことにある。こうした社会科において育成すべき資質・能力を重視した授業アイデア例として、資料から新たな問いを立てる学習活動を設定することを提案した。

IV 中・中等教育学校 第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

世界と日本の様々な地域構成	1	<p>本問題は、地理的分野の大項目「A 世界と日本の地域構成」、「B 世界の様々な地域」のうち中項目「(1) 世界各地の人々の生活と環境」について調査するものである。世界と日本の地域構成を大観し理解しているか、世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現することができるかをみるために出題した。</p> <p>なお、本問題の設問は全て中学校第1学年と同一であり、令和6年度市調査から継続して出題することにより、前の学年における学習の定着の状況を調査することとした。</p> <p>また、設問(2)は、動画を活用して地球上の位置関係を正しく捉えることができるかどうかを問う問題であり、デジタルの優位性を生かした出題形式となっている。</p>
世界の様々な地域	2	<p>本問題は、地理的分野の大項目「B 世界の様々な地域」のうち中項目「(2) 世界の諸地域」について調査するものである。世界の各州の地域的特色を大観し理解しているか、世界の各州でみられる地球的課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察することができるかをみるために出題した。</p> <p>「知識・技能」に関わる事項としては、諸資料から世界の各州の地域的特色に関する情報を効果的に調べることができるかを問うこととした。</p> <p>「思考力・判断力・表現力等」に関わる事項としては、地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて考察することができるかを問うこととした。</p>
日本の様々な地域	3	<p>本問題は、地理的分野の大項目「C 日本の様々な地域」のうち中項目「(1) 地域調査の手法」及び「(2) 日本の地域的特色と地域区分」について調査するものである。地形図や主題図の読図などの地理的技能を身に付けているか、日本の国土の特色を大観し理解しているかをみるために出題した。</p> <p>中項目「(1) 地域調査の手法」については、国土地理院が提供する地理情報システム「地理院地図」を活用して、地域でみられる特色を的確に読み取ることができるかを問うこととした。</p> <p>中項目「(2) 日本の地域的特色と地域区分」については、日本の地形や気候の特色、少子高齢化の課題、日本の資源・エネルギー利用の現状、輸送対象や輸送距離などによる輸送手段の違いを基に、日本の国土の特色を大観し理解しているかを問うこととした。</p>
歴史との対話	4	<p>本問題は、歴史的分野の大項目「A 歴史との対話」について調査するものである。年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解しているか、小学校の学習を踏まえて歴史上の人物や文化財などと時代区分との関わりなどについて考察し表現することができるかをみるために出題した。</p> <p>なお、本問題の設問は全て中学校第1学年と同一であり、昨年度から継続して出題することにより、前の学年における学習の定着の状況を調査することとした。</p>
日本とアジア近世までの	5	<p>本問題は、歴史的分野の大項目「B 近世までの日本とアジア」のうち中項目「(2) 中世の日本」及び「(3) 近世の日本」について調査するものである。中世と近世の社会の変化の様子を考察することができるかをみるために出題した。</p> <p>各設問では、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流に着目したり、図版資料を活用したりすることで、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察することができるかを問うこととした。</p>
日本とアジア近世までの	6	<p>本問題は、歴史的分野の大項目「B 近世までの日本とアジア」のうち中項目「(2) 中世の日本」及び「(3) 近世の日本」について調査するものである。中世と近世の日本を大観して、中世において東アジア世界との密接な関わりがみられたことや、近世において幕府と藩による支配が確立したことを理解しているかをみるために出題した。</p> <p>「知識・技能」に関わる事項としては、琉球が日本、明や朝鮮、更には東南アジア諸国との中継貿易に従事したことや、江戸幕府により全国を支配する仕組みが作られたことを理解しているかを問うこととした。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項としては、文献資料を活用して、中世の日本を大観し、時代の特色を考察することができるかを問うこととした。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第2学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の分野・項目				評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		世界と日本の地域構成	世界の様々な地域	日本の様々な地域	歴史との対話	近世までの日本とアジア	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	選択式・短答式・選短	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年
1	(1)	世界の地域構成を大観し、世界の地域区分について理解している。	○				○			選	65.9	0.1	R6市【中1】	65.5	中1	70.8
	(2)	大陸と海洋の分布などに着目して、地球上の位置関係を正しく捉えることができる。	○				○			選	82.0	0.1	R6市【中1】	72.7	中1	77.5
	(3)	伝統的な住居の特色と、その地域の自然的条件との関係を考察することができる。	○					○		選	67.6	0.0	R6市【中2】	88.5	中1	59.1
2	(1)	グラフから、アジア州の地域的特色を読み取ることができる。	○				○			選	81.2	0.1				
	(2)	複数の情報を結び付けて、ヨーロッパ州に見られる地学的課題の要因や影響を考察することができる。	○					○		選	57.0	0.2	R6市【中2】	49.6		
	(3)	アフリカ州の地域的特色を大観するために必要な情報を選ぶことができる。	○					○		選	72.2	0.1				
	(4)	北アメリカ州に見られる地学的課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて考察することができる。	○					○		選	58.7	0.0	R6市【中1】	58.4		
3	(1)	少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。		○			○			選	67.0	0.1				
	(2)	国内各地の結び付きについて、輸送対象や輸送距離、輸送時間などによって輸送手段の違いが見られることを理解している。		○			○			選	53.2	0.1				
	(3)	日本の地形の特色を理解している。			○			○		選	69.0	0.1				
	(4)	日本の気候の特色を理解している。			○			○		選	63.1	0.1	R6市【中2】	41.0		
	(5)	日本の資源・エネルギー利用の現状を理解している。			○			○		選	68.9	0.1				
	(6)	地理情報システムを活用して、地域で見られる事象を的確に読み取ることができる。			○			○		選	77.9	0.1				
4	(1)	時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。				○		○		選	71.2	0.1			中1	63.2
	(2)	小学校での学習を踏まえ、文化財と時代区分との関わりについて考察することができる。				○		○		選	79.7	0.1	R6市【中2】	72.2	中1	78.6
	(3)	年代の表し方についての基本的な内容を理解している。				○		○		選	50.6	0.1	R6市【中2】	44.2	中1	43.7
5	(1)	東アジアにおける交流に着目して、中世と近世の社会の変化の様子を考察することができる。					○	○		選	54.1	0.2	R6市【中2】	56.6		
	(2)	武士の政治への進出と展開に着目して、中世と近世の社会の変化の様子を考察することができる。					○	○		選	40.6	0.3	R6市【中2】	48.1		
	(3)	図版資料を活用して、中世と近世の社会の変化の様子を考察することができる。					○	○		選	100.0	0.0	R6市【中2】	60.5		
6	(1)	琉球の国際的な役割に関する資料から、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを読み取ることができる。					○	○		選	36.3	0.2	R6市【中2】	39.6		
	(2)	文献資料を活用して、中世の日本を大観し、時代の特色を考察することができる。					○	○		選	37.4	0.3				
	(3)	織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係について、原因や影響などに着目して考察することができる。					○	○		選	65.6	0.4	R6市【中2】	61.9		
	(4)	江戸幕府の成立と大名統制に関する資料から、幕府と藩による支配が確立したことを読み取ることができる。					○	○		選	67.2	0.6	R6市【中2】	65.3		
	(5)	近世における産業や交通の発達について理解している。					○	○		選	41.8	0.9	R6市【中2】	40.1		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校 社会 第2学年】

設問番号	正答例	解説(考え方・ワンポイントアドバイス・これまでの学習のつながり等)
1	(1) ①…A、②…F (両方できて正解)	地図1中のAはユーラシア大陸、Bは北アメリカ大陸、Cはアフリカ大陸、Dはオーストラリア大陸、Eは南アメリカ大陸、Fは南極大陸です。 ①二つの州に区分されている大陸はユーラシア大陸で、アジア州とヨーロッパ州に区分されています。 ②どの州にも属していない大陸は南極大陸です。
	(2) ウ	ある地点から地球の中心に引いた線をのぼして、地球上の正反対にあつた地点を対蹠点(たいせきてん)といいます。例えば、北緯36度、東経140度(東京のおおよその位置)の対蹠点は南緯36度、西経40度で、南アメリカ州のウルグアイ沖の大西洋上になります。図1は南アメリカ大陸の北部、赤道直下(緯度0度)で西経60度付近の位置を中心として映っていますので、その対蹠点は同じく赤道直下(緯度0度)、東経120度付近の位置となり、これを中心として映しているウが正答ということになります。
	(3) ①…エ、②…イ (両方できて正解)	地図2中で示されている地域は熱帯に属しており、1年中高温で、雨が多いという特徴があります。そのため家屋には、暑さや大雨をしのぎ、地面からの湿気を防ぐため、風通しの良い壁と、高床にしているといった工夫がされています。資料1でも、住居が高床になっていることがわかります。
2	(1) エ	資料1からは、2022年のマレーシアとタイでは、輸出総額のうち機械類が最も大きな割合を占めるようになったことが読み取れます。一方で、2022年のインドネシアでは、輸出総額に占める機械類の割合は7.4%で輸出品目のうち4番目であり、輸出額上位3品目には入っていないことがわかります。
	(2) ウ	表1を見ると、東ヨーロッパのポーランドやルーマニアは2004年以降にEUに加盟しており、一人あたり国民総所得が西ヨーロッパの国々と比べて低いことが読み取れます。資料2を見ると、これらの国々からドイツなどの賃金の高い国に移住する労働者が多いことがわかります。
	(3) ウ	資料6からは、アフリカの国々であるナイジェリア、ガーナ、コートジボワール、ケニアでは、いずれの国においても、原油や金、カカオ豆、茶など、少ない種類の農産物や鉱産資源が主な輸出品目となっていることが読み取れます。また、資料4からは、原油の国際価格の推移のグラフとナイジェリアの輸出総額の推移のグラフの形が似ており、輸出品の価格の変動によって国の収入が大きな影響を受けていることが読み取れます。一方で、資料3からはアフリカの国でカカオが多く生産されていることが、資料5からは特定の鉱産資源についてアフリカのどの地域で採掘されるのかということが読み取れますが、アフリカの国々の主要な輸出品目や、天候や世界的な経済状況との関連性は読み取れません。
	(4) ①…ウ、②…ウ、③…ア (全てできて正解)	資料7を見ると、アメリカの全人口に占めるヒスパニックの割合は1990年には9.0%でしたが、2020年には18.7%と急増していることがわかります。ヒスパニックの割合が大きい地域は、資料10の分布図を見ることで、メキシコに近い南部であることが読み取れます。メキシコなどからアメリカの南部にヒスパニックの人々がやってくる原因については、資料8のグラフを見ることで、「アメリカとメキシコで賃金に大きな格差があるため」であることが読み取れます。
3	(1) ア	人口増減率が0%より高ければその地域の人口は増加しており、0%より低ければ減少していることになります。地図1からは、Aの地域の方がBの地域よりも人口増減率が高く、Aの地域の人口は減少している、Bの地域人口は増加していることが読み取れます。また、図ア・図イの人口ピラミッドからは、図アの地域の方が高齢化が進んでいることがわかります。一般に、過疎化が進んでいる地域では、多くの若者が仕事を求めて都市に移り住むことで高齢者の割合が高くなっています。よって、過疎化が進んでいる地域とその人口ピラミッドの組み合わせとしては、Aと図アが適当だと判断できます。
	(2) ウ	日本国内の貨物輸送は、個別に配達することが可能な自動車による輸送の割合が高く、2023年度には90%以上を占めています。旅客輸送については、近距離であれば自動車占める割合が高いですが、距離が長くなるにつれて鉄道の占める割合が高くなり、さらに長距離になると航空の割合が最も高くなります。
	(3) イ	資料5からは東北地方の中央には奥羽山脈がはしり、その西側に羽山山脈があることがわかります。したがって、イが誤りと分かります。日本の国土は、陸地の約4分の3が山地と丘陵で、本州の中央部には、日本アルプスと呼ばれる飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈が連なっています。また、日本の川は世界の川と比べると傾斜が急で、長さは短く、流域面積が小さいという特徴があります。
	(4) ①…ア、②…エ (両方できて正解)	北海道に位置する札幌は、年間を通して気温が低いという特徴があります。そのため、Aの雨温図が札幌のものであると分かります。一方、北陸地方に位置する金沢は、冬に多くの雪が降るため、冬の降水量が多いという特徴があります。そのため、Dの雨温図が金沢のものであると分かります。
	(5) イ	火力発電に用いる石油や石炭のほとんどは外国からの輸入に頼っています。そのため、火力発電所の多くは、電力を大量に消費する大都市に近く、船で運ばれてくる石油や石炭の輸送に便利な海のそばに設置されています。
	(6) ウ	資料7中のX点とY点を結ぶ線は、坂出駅から始まり笠山の北東を通り、標高280.9mの金山の頂上を通っています。そのため、X点から約500mの笠山付近で一度標高が上がり、下がった後、標高約280mに達するウの断面図が適当と判断できます。
4	(1) ①…ウ、②…ア (両方できて正解)	時代の名称には、「奈良時代」や「江戸時代」のように政治の中心地の地名が使われているものや、「明治時代」や「昭和時代」のように元号(中国にならって取り入れられた時代の名称)が使われているものなどがあります。なお、時代の区切り方にはさまざまな考え方があります。
	(2) イ	東大寺の大仏は古代(奈良時代)、慈照寺銀閣は中世(室町時代)、富岡製糸場は近代(明治時代)に造られました。
	(3) エ	世紀は西暦を100年ごとに区切る表し方です。紀元1年から100年までを「1世紀」、101年から200年までを「2世紀」と表すため、「20世紀」は1901年から2000年までを指します。
5	(1) イ	Aの徳川家光は江戸時代、Bの足利義満は室町時代、Cの平清盛は平安時代、Dの北条時宗は鎌倉時代にそれぞれ活躍しました。
	(2) エ	①は鎌倉時代、②は平安時代、③は江戸時代、④は室町時代についてそれぞれ述べています。
	(3) ※採点対象外 イ	1の踏絵は、徳川家光の時代にキリスト教信者を発見するために用いられました。2の防壁は、北条時宗の時代にモンゴルの襲来に備えて造られました。3の厳島神社は、日宋貿易で大きな利益を得た平清盛が航海の安全を祈るために整備しました。4の勘合は、足利義満の時代に明との貿易で日本の正式な貿易船にあえられました。
6	(1) ①…ア、②…ウ、③…ウ (全てできて正解)	資料2を見ると、琉球王国は日本や中国、朝鮮半島、そして東南アジアにも船を送り、交易を行っていたことがわかります。資料3を見ると、琉球王国は日本から輸入した刀を東南アジアに輸出したり、明から輸入した銅銭を日本へ輸出したりしていたことが読み取れます。このような貿易を中継貿易といい、これによって琉球王国は栄えました。なお、明は外国との貿易を制限していましたが、琉球王国は優遇されていました。
	(2) ウ	資料4は、幕府が御家人を救うために出したものです。資料5は、建武の新政によって社会が混乱した様子が記されたものです。資料6は、団結を固めた農民が一揆を起こした結果、借金の帳消しが認められたことが刻まれたものです。資料7は、戦国大名が領国内の武士や民衆の行動を取り締まるために定めた分国法の1つです。よって、「民衆が団結を固め、勢力を強めた時代」という特色を説明するのに最も適しているのは、資料6となります。
	(3) イ	豊臣秀吉は、1587年に宣教師の国外追放を命じましたが、資料9を見ると、その後もキリシタンの数は増え続けていることが読み取れます。資料8に書かれているように、秀吉は貿易の利益を重視してポルトガル船の来航は禁止しなかったため、政策は徹底されませんでした。
	(4) ア	大名には、徳川家の一族である親藩、古くから徳川家の家臣であった譜代大名、関ヶ原の戦いから従うようになった外様大名の区別がありました。江戸幕府は、大名の領地(藩)を取りつぶしたり、領地を変えたりする力をもっており、その配置を工夫することで大名を統制しました。
	(5) ウ	室町時代(中世)には、各地で農業や手工業が発達し、定期市が開かれる日数も増えました。また、馬や牛を使って物資を運ぶ馬借・車借の活動が盛んになりました。江戸時代(近世)になると、大坂が全国の商業の中心地となり、諸藩が蔵屋敷を置いて年貢米や特産物を販売しました。また、海運が発達し、木綿や酒などの物資が船で大阪から江戸に運ばれました。

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第2学年 歴史的分野「近世までの日本とアジア」

【特徴的な問題】

大問6

(2) あかりさんは、中世の学習をふり返り、次の資料4～資料7を見ながら、中世の特色をまとめようとしています。

資料4 永仁の徳政令 (部分要約)

御家人以外の武士や庶民が御家人から買った土地については、売買後の年数に関わりなく、返さなければならない。

資料5 二条河原落書 (部分要約)

このごろ都ではやっているものは、夜襲、強盗、天皇のにせの命令。

囚人、急ぎの使いを乗せた早馬、たいしたことのないの起こる騒動。

資料6 正長の土一揆の碑文

正長元年(1428年)以前の借金は神戸4か郷では帳消しにする。

資料7 朝倉孝景条々 (部分要約)

一 本拠である朝倉館のほか、国内に城を構えてはならない。全ての有力な家臣は、一乗谷に引っ越し、村には代官を置くようにしなさい。

あかりさんは、中世の特色について、次のように発表しました。

中世は、「民衆が団結を固め、勢力を強めた時代」と私は考えます。

この特色は、を見ると分かります。

上の文中のに当てはまるものを、次のア～エの中から1つ選びなさい。

ア 資料4

イ 資料5

ウ 資料6

エ 資料7

出題の趣旨

本設問は、文献資料を活用して、中世の日本を大観し、時代の特色を考察することができるかどうかをみるために出題した。指導に当たっては、他の時代(中世を大観する場合は主に古代)との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして、時代の特色を生徒が自分の言葉で表現できるようにすることが重要である。

指導のポイント

○ 資料を活用して時代の特色を考察し、表現する。

時代の特色を考察して表現する際の工夫として、様々な資料を選択して有効に活用することが考えられる。資料を活用することで、時代の特色を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉え、根拠を明確にして論理的に説明することが可能となる。このように、多面的・多角的に思考・判断したり、根拠を明確にして表現したりする学習を、社会科において一層充実させることが重要である。

なお、設問では文献資料を提示しているが、実際の学習場面では、絵画資料や地図など様々な資料を活用することが考えられる。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

「中世の学習をふり返り、まとめよう」 ～資料を活用して時代の特色を考察し、表現する～	〈実施対象学年〉 第1学年
---	------------------

① 中世の学習をふり返る。



先生

中世とはどのような時代だったのでしょうか。これまでの学習をふり返り、中世の特色を考えてみましょう。

中世はやっぱり武士の時代だと思うな。古代は天皇や貴族が中心だったけれど、中世になると武士が権力をにぎったから、中世とは「武士が主役になった時代」とまとめられそうだね。



ひろしさん

確かにそうだね。でも、武士だけが中世の主役だったのかな。室町時代には、商人や農民たちも行動を起こすことがあったよね。



あかりさん

なるほど。そういえば、中世になると民衆も文化を楽しむようになったんだっけ。鎌倉時代におこった新しい仏教は、分かりやすい教えで民衆にも広まったんだよね。



ひろしさん

② 資料を活用して時代の特色を考察する。



先生

いろいろな角度から考えることができそうですね。では、この時間は、中世の特色を最もよく表している資料を1つか2つ選び、その内容を基にして、中世とはどのような時代だったのか、まとめていきましょう。

これまでの学習をふり返り、時代の特色を最もよく表していると考えられる資料を選択させ、「①資料からどのようなことが分かるか」、「②なぜその資料が重要だと考えたか」、「③選んだ資料から、中世とはどのような時代だったといえるか」を説明する学習活動を設定する。その際、政治・外交・産業・文化などの視点ごとに役割を分担するなど、多面的・多角的に考察できるようにすることが重要である。また、「Xチャート」などの思考ツールを使って情報を整理することも考えられる。

なお、活動に当たっては、端末で資料を共有しておき、生徒がそれらを加工して発表シートを作成するといった手立ても可能である。

<個別に支援を行う場面>



先生

ひろしさんは、武士に着目していましたね。武士が社会の中で力をもつようになった出来事として、特に重要だと思うものは何ですか？ 年表を見ながら、いくつか挙げてみましょう。



先生

そうですね…。源頼朝が鎌倉幕府を開いたことでしょうか。あと、承久の乱や御成敗式目の制定も大きな出来事だったような…。



ひろしさん

いいですね。例えば、御成敗式目の資料を実際に見てみましょう。御成敗式目の特徴として、どのようなことがわかりますか？



ひろしさん

はい。御成敗式目は、律令とは別に、武士の慣習に基づいて定められた独自の法だということがわかります。



先生

つまり、御成敗式目の制定前はどうかということですか？



ひろしさん

朝廷が定めた律令はあったものの、御成敗式目のような武士のための法はなかったということでしょうか。

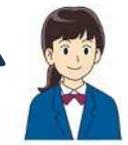


先生

考えがだんだん深まってきましたね。今考えたことを基にまとめていきましょう。

③ グループで相互に発表する。

私は、「正長の土一揆の碑文」を選びました。
①この資料から、農民が団結して土倉や酒屋に借金の帳消しを求め、それが認められたことがわかります。
②この資料が重要だと考えたのは、農民がこれほどの力をもつことは、古代までの歴史ではなかったからです。
③だから私は、中世は「民衆が団結を強め、勢力を強めた時代」だと思います。



あかりさん

私は、「御成敗式目」を選びました。
①この資料から、律令とは別に、武士の慣習に基づいて独自の法が定められたことがわかります。
②この資料が重要だと考えたのは、古代にはなかった武士のための法を制定し、武力だけでなく法を基に政治を行うようになったことが、幕府の政治にとって大きな転換点だったと思うからです。
③だから私は、中世は「武士が武力を用いるだけでなく政治の仕組みも整え、支配を確かなものにした時代」だと思います。



ひろしさん

それぞれの発表を聞き合った後、自分の発表と他者の発表との関連について考察することも考えられる（例：「民衆の団結」という特色の背景に「産業の発達」があった）。このように、他者の考えを参考にしながら自分の考えをさらに深めることができるように指導することが大切である。

※ 本単元は、第1学年第3学期に学習する内容であるため、第2学年の調査問題として出題し、授業アイデア例として取り上げている。

令和7年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【社会】

【小学校校長会】	下落合小学校	校長	小田切 倫子
【中学校長会】	上大久保中学校	校長	高久 正行
【活用推進委員会(小学校)】	大東小学校	校長	多田 嘉典
【活用推進委員会(中学校)】	与野西中学校	校長	内田 崇史

【小学校社会科部会】

部長	大谷場小学校	校長	山田 和宏
副部長	日進北小学校	教頭	時森 英明
部員	三室小学校	教諭	松本 由佳
	浦和別所小学校	教諭	八木澤耕太
	大谷場小学校	教諭	中丸 裕人
	東大成小学校	教諭	能登 恭平
	大砂土小学校	教諭	脇 美咲
	大谷小学校	教諭	緒方 義仁
	上落合小学校	教諭	上園勇輝也
	美園小学校	教諭	鈴木 智仁

【中学校社会科部会】

部長	慈恩寺中学校	校長	高波 國夫
副部長	大久保中学校	教頭	齊藤耕太郎
部員	岸中学校	教諭	大谷 優
	白幡中学校	教諭	梅崎 渉
	内谷中学校	教諭	色摩 大輝
	三橋中学校	教諭	吉田 耕大
	大成中学校	教諭	佐藤 純
	大谷中学校	教諭	太田 滉貴
	与野西中学校	教諭	大越 一毅
	城北中学校	教諭	高野 隼
	美園南中学校	教諭	田所 佑樹

【担当】

教育研究所	主任指導主事	秋永 圭子
教育課程指導課	主任指導主事	小林孝太郎

教育研究所	指導主事	江森 大貴
教育課程指導課	主任指導主事	高見澤 悠

令和7年度 さいたま市学習状況調査 解説資料【改訂版】 社会

令和8年2月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所
